

第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

◇日時 令和2年10月17日(土) 10時30分～12時30分

◇方法 Zoomによるオンライン会議システム

◇参加者 石田(佐保川小)・石原(平城小)

岩城・真地・池田(学生)

井上・阪口(万葉文化館)

中澤・大西(奈良教育大) 計9名

◇内容(授業構想の相互検討)

1. 石原先生(平城小) 6年「修学旅行の思い出を残そう」

修学旅行の思い出を長歌と反歌で表現させたい。

一人1台のカメラを持たせて写真を撮り、文章と短歌で詳しく書くところと端的に書くところを。

【相互検討】

長歌は儀礼的な意味で作られていた。

吉野行幸の長歌は例になるかも。使えると思う。

儀式の場がなくなっていったので、長歌が必要なくなっていき、やがて短歌が主流に。

旅行記にしていくためには、「こと」「もの」に心情が組み合わさったものがいい。

浦島のパターン…物語になっているから分かりやすい。

五七にとらわれなくてもいいのでは。

行事の時にこういう取組ができるのはいいと思う。

2. 岩城さん(学生) 5年「地域にある詩歌の題材を探し、当時の人々の感覚に思いをはせよう」

明日香村明日香小学校をイメージして

現地に赴き、昔の人が感じた風景を感じ取ることを体感させたい。

「詠まれている場所が今もある」 「こんな気持ちを抱いたんだ」

【相互検討】

校外学習でもっとボリュームを…スケッチではなく、言葉で残した方がいいのでは。

寝転ぶ 思いついたことを書き留める

山に登った時に見えた風景、心情をしっかりと言葉に残しておく、同化できるかも。

教科が明確になっていないので、それを決めると活動の重きが見えてくる。

絵を描かせるとだめかも(絵が得意でない子、相当時間がかかる)

やはり総合でできないか 古代の衣装を着てみるのもいいかも。

明日香小学校の校歌を調べてみると関連付けられるかもしれない。

「香具山」の今の違い、なぜこの山に登って舒明天皇は見えない「海原」を詠んだのか。

「香具山」に対する歌の作者の捉え方の違いなどについても考えられるような授業にしたい。

同じ場所に立っても、当時とは見えるものが違う。時間軸をずらすことで思考させる。

いろんな活動に広がればいいし、その場で短歌を作る子もいていい。

「この先どうしたらいい？」と考えることでESDの視点が入る。

3. 池田さん（学生） 6年国語科「表現して伝える万葉集」

古典、書道を嫌いにさせたくない。

写本から今と昔の違いを見つける活動から時代による変遷を見せたい。

万葉文化館へ見学、聞き取る活動も取り入れる。

お気に入りの歌をについて調べ、書道に結び付けたい。

好きな歌に出てくる言葉を筆で書いて表現、いろんな書体で書く、大きい紙に書いてみる など。

【相互検討】

写本の並べ替えクイズ、仲間外れクイズをすると興味・関心が広がる

日本文化の広がりが見られるから面白いと思う。

木簡から始まる記録メディアの移り変わりを紹介するのも面白いかも。

SNSでも結局は文字 「言葉はアイデンティティ」

「どんな和歌があって何を伝えようとしたのかな」と思いを馳せる。

相手意識をもって活動が進むのがいい。

お気に入りの和歌を見つけるというのがいい。6年生の段階でやることで中・高に必ずつながる。

「日本独自の言葉の美しさ」「だから感動できる」それを伝えたい

ESDでは批判的思考力を重視する。源氏物語も時代によって変わっている。

教科書に書いてあることを批判的に見ることも。

次回は11月14日（土）10時30分～